

①事業名	【1】地域子ども教室推進事業（地域教育力再生プラン）	
②主管課及び関係課（課長名）	（主管課）生涯学習政策局生涯学習推進課（課長：栗原 靖）	
③施策目標及び達成目標	施策目標 1-2 地域の教育力の向上 達成目標 1-2-3 放課後・週末などにおける子ども等の体験活動の受け入れの場を全国的に拡充することにより、地域コミュニティーの充実を図る。	
④事業の概要	子どもたちに関わる重大事件の頻発など、青少年の問題行動の深刻化、地域や家庭の教育力の低下等の緊急的課題に対応し、未来の日本を創る心豊かでたくましい子どもを社会全体で育むため、学校等を活用して、緊急かつ計画的に子どもたちの居場所（活動拠点）を整備し、地域の大人の教育力を結集して、安全管理員・活動アドバイザーとして配置し、子どもたちの放課後や週末におけるスポーツや文化活動、ものづくり活動などの様々な体験活動や地域住民との交流活動等を支援するために、国が都道府県の運営協議会等を通じて、市町村の実行委員会等に再委託することにより実施するものである。平成18年度は、実施箇所数を8,000箇所から10,000箇所へ増加するなど拡充を図る。事業形態：委託（対象：民間団体等）	
⑤予算額及び事業開始年度	平成18年度概算要求額：9,372百万円（平成17年度予算額：8,762百万円） 事業開始年度：平成16年度	
⑥事業開始時において得ようとした効果	〔拡充事業の場合のみ記入〕 本事業は、様々な地域資源（人材や施設など）を活用した子どもたちの放課後や週末などにおける様々な体験活動等を行う居場所づくりを通じて、大人同士、子ども同士の相互理解の促進等による地域コミュニティーの形成や、地域で子どもを見守り育てる環境づくりと気運の醸成による地方独自の取組の促進を予定。	
⑦得られた効果	〔拡充事業の場合のみ記入〕 平成16年度における取組について、今年度中に、検証することとしている。	
⑧得ようとする効果	事業を実施した地域において、協議会の活動を通じて、地域住民が主体となった子どもの居場所づくりがなされる。これにより、スポーツや文化活動を通じた、子どもと地域の大人の交流により子どもたちの社会性の涵養が図られるとともに、大人と大人の結びつきが強化されるなど、希薄化している人間関係が修復され、地域コミュニティーの充実が図られるとともに、地域のリーダー等が育成されることにより、地域の教育力の活性化に貢献する効果が期待できる。	⑨達成年度
		平成18年度
⑩必要性	地域や家庭の教育力の低下を背景として、最近の子どもたちに関わる重大事件の頻発など、青少年の問題行動が一層深刻化していることから、地域社会で心豊かな子どもたちを育成する気運の醸成が急務となっている。このため、地域の大人の教育力を結集し、緊急かつ計画的に子どもたちの放課後や週末におけるスポーツや文化活動などの様々な体験活動や地域住民との交流活動等を行う子どもの居場所づくりを支援する必要がある。	
⑪効率性	子ども居場所づくりについては、様々な地域事情を踏まえるとともに、継続的な事業への取組を図るため、行政関係者のみならず、ボランティア団体関係者、NPO関係者、PTA関係者、青少年・スポーツ、文化団体関係者などで構成される運営協議会へ委託により全国的かつモデル的に実施しているところであり、今後、地域の自主的な活動に委ねていくため、例えば、このような活動を積極的に企画し、実行するリーダー的な役割を担う地域人材の育成などの体制づくりや事業実施のためのノウハウの蓄積を行っているところである。 本来であれば、このような取組は、地域独自の自発的な取組に任せるべきところであるが、核家族化や地域における人間関係の希薄化などを背景に、地域住民同士の交流活動の場が十分に整っていない現状も踏まえ、そのきっかけを意図的に設けるためには、国が緊急的かつ計画的に取り組むことが効率的である。	
⑫想定できる代替手段との比較考量	本事業は、国が都道府県の運営協議会等を通じて、市町村の実行委員会等に再委託することにより実施するものであるが、地方自治体単独事業としてを実施することとした場合、地域住民同士の交流活動の場が十分に整っていない現状では、国の委託支出分について節減できたとしても、ノウハウや先進事例が少ないことから、目標達成のために	

	<p>必要な事業展開は期待できないと思われる。</p> <p>国の委託事業として実施することにより、短期間に、全国的な事業展開が可能となるとともに、事業実施のノウハウの提供や先進事例の普及広報を通じて、地域の自主的な取組を一層効率的に推進することができるものと考えられる。</p> <p>以上のことから、本事業によって効果が効率的に得られるものと判断。</p>
⑬ 有効性	<p>指標・参考指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全・安心な子どもの活動拠点（居場所）の確保、地域の大人と子どもの交流、ふれあいの機会となっている等についての住民意識 ・指導員等を対象とした研修実施地域数、研修参加人数
	<p>効果の把握の仕方（検証の手順）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域子ども教室実施地域と未実施地域における住民等を対象としたアンケート調査を実施することとし、特に、地域子ども教室実施地域については、本事業の実施による地域の活性化についても把握する。
	<p>得ようとする効果の達成見込み及びその判断根拠</p> <p>【得ようとする効果の達成見込み】</p> <p>本事業では、短期間で全国的に事業を展開し、地域住民同士の交流活動の場を設けることにより、ボランティアとして継続的な地域活動のきっかけとするなど、地域コミュニティの充実が早期に図られる等の効果を見込んでいる。昨年度は全国 4,000 箇所での実施目標に対し、全国 5,400 箇所を企画、実施されたことを考慮し、また、平成 17 年度において実施を予定している全国的な調査や実績報告書等からボランティア参加数などについて得られる結果により判断することができる。</p>
⑭ 公平性、優先性	[政策の特性に応じて、必要により評価]
⑮ 評価に用いたデータ・情報・外部評価等	・「地域の教育力の充実に向けた実態・意識調査」（平成 14 年 3 月 文部科学省委嘱調査 子どもの体験活動研究会）
⑯ 備考	本事業の実施期間は 3 年間としている。（平成 16～18 年度）

子どもの居場所づくり ~地域の大人たちの力を結集し、子どもの活動拠点を整備~

地域子ども教室推進事業

H17 予算 8,762百万円
H18 要求 9,372百万円

平成16年度~18年度 緊急3カ年計画

・学校の校庭や教室等を子どもたちの安全・安心な活動拠点(居場所)として開放

・放課後や週末などの一定時間、子どもたちがスポーツや文化活動等の様々な活動を実施

地域の大人たちが安全管理員、指導員として協力



〔活動例〕 お手玉やめんこなどの昔遊び
野球やサッカーなどのスポーツ

図工、折り紙、読み聞かせなど文化活動
パソコンなどの操作等を教え合う など

地域子ども教室の一層の推進
~より魅力ある居場所づくりのために~

子どもたちの目的意識の自覚を促す
~将来の目標や夢の実現に向けて~

夢の実現のための学習意欲の向上
~学習意欲の喚起~

「地域子ども教室」の充実

「地域子ども教室」の拡充

H17 予算: 全国 8,000カ所
H18 要求: 全国 10,000カ所

「週末チャレンジ教室」の継続

週末において、子どもたちにとって、より高度で魅力的な学習活動、体験活動の機会を提供するため、地域の専門的知識や技能を有する人材を講師などとして活用
全国2,000カ所(年間12回開催)